

第3章

要介護認定者/介護者 調査

1. 調査の概要

(1) 目的

要介護認定者と介護者の健康や生活の状況と問題点、医療・介護、福祉等に関するニーズ、介護保険制度に対する評価等を把握し、次期介護保険事業計画の策定に資する基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査対象者

平成25(2013)年10月31日時点での要介護認定者のうち、特別養護老人ホーム入居者を除外して、各要介護度から200人ずつ無作為抽出した計1,000人を調査対象者とした。

(3) 調査方法

上記対象者の介護を主に担当している家族・親族（主介護者）に対して、訪問面接調査を実施した。介護を主に担当している家族・親族による回答が難しい場合は、調査対象者本人等に回答してもらった。

(4) 実施期間

平成25（2013）年11月8日～平成26（2014）年1月31日

(5) 調査完了状況

調査完了数： 675票

(要介護1：160、要介護2：126、要介護3：130、要介護4：134、要介護5：125)

回収率： 67.5%

調査不能理由：介護者/家族の拒否 94、介護者不在 50、本人死亡 43、
本人が入院入所で家族が拒否 34、本人の拒否 20、本人不在 25、
転居 12、家族/本人以外の人拒否 10、住所不明 4、その他 33

(6) 回答者

「家族・親族」による回答が84.7%、「要介護認定者本人」による回答が12.6%、「その他」の人による回答が2.7%であった。

回答者の中で最も多かったのは「配偶者」31.1%で、次いで「娘」23.4%（既婚：13.3%、未婚：10.1%）、「息子」13.6%（既婚：5.9%、未婚：7.7%）、「要介護認定者本人」12.6%、「嫁」12.3%であった。

表3-1-1 回答者

配偶者	息子 (配偶者あり)	息子 (配偶者なし)	娘 (配偶者あり)	娘 (配偶者なし)	息子の妻(嫁)	娘の夫(婿)	孫	孫の配偶者	兄弟・姉妹	その他の親族	ホームヘルパー	その他 (親族以外)	本人	要介護認定者	総数
210	40	52	90	68	83	2	5	1	16	5	4	14	85	675	
31.1%	5.9%	7.7%	13.3%	10.1%	12.3%	0.3%	0.7%	0.1%	2.4%	0.7%	0.6%	2.1%	12.6%	100.0%	

(7) 結果の集計に関する注意点

- 本調査では、要介護度ごとの傾向を把握するために、人数が少ない要介護度においても一定の有効回収数が得られるよう、全要介護(要支援)認定者における各要介護度の人数比率とは異なる標本数を割り当てて調査対象者を抽出した(各要介護度から200人ずつを抽出)。
- そのため集計にあたっては、要介護度ごとの回答結果が、実際の母集団(10月31日時点の認定者)の人数比率に応じて全体の結果に反映されるように、ウェイト値を乗じた標本数で集計している(ウェイトバック集計)。

• ウェイト値の算出方法

$$\text{ウェイト値} = (\text{各介護度の認定者数} / \text{各介護度の完了数}) \times (\text{完了総数} / \text{認定者総数})$$

- ウェイト値を乗じた(ウェイトバック)後の標本数は、要介護1:216人、要介護2:167人、要介護3:101人、要介護4:95人、要介護5:96人である。

(注) ウェイト値は少数第7位まで算出している。ウェイト値が整数でないため、ウェイトバック後の標本数も小数点以下を四捨五入した値となっている。そのため、集計によっては総数と合わない場合がある。

	認定者数 (10/31時点)	標本数	完了数	認定者数 完了数	ウェイト値	ウェイトバック 後の標本数
要介護1	1,399	200	160	8.7437500	1.352436	216
要介護2	1,076	200	126	8.5396825	1.320872	167
要介護3	653	200	130	5.0230769	0.776942	101
要介護4	615	200	134	4.5895522	0.709887	95
要介護5	621	200	125	4.9680000	0.768423	96

注) 認定者数は、特別養護老人ホーム入居者を除外した数を示している。

2. 要介護認定者の属性

- 調査対象となった要介護認定者の属性を表 3-2-1～表 3-2-8 に示した。
- 男女比は概ね3:7で女性が多い。要介護度が重くなるに従って、女性の比率が高まり、「要介護5」では男性25%、女性75%となっていた。
- 年齢構成は、「80歳以上」が71.8%を占めていた。
- 世帯構成は、「単身世帯」18.9%、「夫婦二世帯」22.0%、「子供と二世帯」11.5%であった。要介護1や2の人では単身世帯が25%程度を占めていた。世帯員数でみると、「1人（ひとり暮らし）」18.9%、「二人」35.4%、「三人以上」45.0%であった。要介護度が重くなるほど、世帯員数は多くなる傾向が見られた。
- 居住場所は「自宅（親戚宅も含む）」74.1%、「有料老人ホーム（少数だが高齢者向け賃貸住宅も含む）」6.1%であった。施設系では「病院」7.0%、「老人保健施設」5.9%であった。今回の調査では市が把握している特別養護老人ホーム入居者は調査対象から除外していたが、「特別養護老人ホーム」で生活している人が1.8%いた。要介護度が重くなるに従って「自宅」の割合が減少し、「病院」の割合が増加していた。要介護5では「自宅」の割合は42.3%で、「病院」が25.8%であった。
- 住居は「戸建て持ち家」が最も多く（65.4%）、次いで「公営住宅」16.3%であった。
- 居住地域は「下連雀」「上連雀」に住んでいる人が多く、「井の頭」や「大沢」地域は少なかった。
- 所得段階は「第2段階」が最も多く26.6%を占めていた。

表3-2-1 要介護認定者の性別

	人数	男性	女性
総数	675	32.5%	67.5%
要介護1	216	38.0%	62.0%
要介護2	167	34.9%	65.1%
要介護3	101	31.7%	68.3%
要介護4	95	24.2%	75.8%
要介護5	96	25.0%	75.0%

表3-2-2 要介護認定者の年齢階級別

	人数	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～90歳	90歳以上
総数	675	5.9%	7.5%	14.6%	23.2%	22.9%	25.7%
要介護1	216	8.3%	7.3%	17.4%	27.5%	22.5%	17.0%
要介護2	167	5.4%	7.8%	12.0%	26.3%	21.6%	26.9%
要介護3	101	5.1%	6.1%	12.1%	19.2%	27.3%	30.3%
要介護4	95	4.2%	8.3%	11.5%	18.8%	21.9%	35.4%
要介護5	96	4.2%	8.3%	18.8%	16.7%	22.9%	29.2%

表3-2-3 要介護認定者の世帯構成

	人数	単身世帯	夫婦二人世帯	子供と二人世帯	二世帯 (子と同居)	三世帯 (子・孫と同居)	その他
総数	675	18.9%	22.0%	11.5%	23.7%	20.4%	3.4%
要介護1	216	24.9%	26.3%	12.0%	19.4%	16.1%	1.4%
要介護2	167	24.7%	17.5%	10.8%	19.9%	22.9%	4.2%
要介護3	101	11.8%	17.6%	13.7%	28.4%	22.5%	5.9%
要介護4	95	9.5%	24.2%	13.7%	26.3%	23.2%	3.2%
要介護5	96	12.5%	22.9%	7.3%	32.3%	20.8%	4.2%

表3-2-4 要介護認定者の世帯員数

	人数	1人	2人	3人以上	無回答
総数	675	18.9%	35.4%	45.0%	0.7%
要介護1	216	25.0%	38.9%	35.6%	0.5%
要介護2	167	24.6%	31.7%	43.7%	0.0%
要介護3	101	11.9%	33.7%	52.5%	2.0%
要介護4	95	9.4%	39.6%	50.0%	1.0%
要介護5	96	12.5%	31.3%	55.2%	1.0%

表3-2-5 要介護認定者の居住場所

	人数	自宅 (親戚宅を含む)	有料老人ホーム (サ高住を含む)	養護・軽費老人ホーム ケアハウス	グループホーム	病院	老人保健施設	特別養護老人ホーム	その他
総数	675	74.1%	6.1%	1.5%	2.4%	7.0%	5.9%	1.8%	1.2%
要介護1	216	89.8%	4.2%	0.5%	1.4%	1.9%	0.5%	0.5%	1.4%
要介護2	167	80.2%	4.8%	0.0%	4.2%	1.8%	4.8%	1.8%	1.8%
要介護3	101	70.3%	6.9%	2.0%	3.0%	3.0%	11.9%	3.0%	0.0%
要介護4	95	64.2%	7.4%	3.2%	1.1%	12.6%	9.5%	1.1%	1.1%
要介護5	96	42.3%	10.3%	4.1%	2.1%	25.8%	10.3%	4.1%	1.0%

表3-2-6 要介護認定者の住居形態

	人数	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (分譲マンション等)	公営住宅	賃貸住宅	その他
総数	675	65.4%	7.8%	16.3%	8.4%	2.1%
要介護1	216	65.0%	6.5%	19.8%	7.4%	1.4%
要介護2	167	60.2%	9.0%	15.7%	12.7%	2.4%
要介護3	101	69.6%	3.9%	17.6%	4.9%	3.9%
要介護4	95	70.5%	9.5%	12.6%	6.3%	1.1%
要介護5	96	65.6%	11.5%	11.5%	9.4%	2.1%

表3-2-7 要介護認定者の住居地域

	人数	下連雀 1-4 上連雀 1-5	下連雀 5-9 上連雀 6-9 野崎 1	井の頭	牟礼 北野 新川 2-3	新川 1,4-6 中原	野崎 2-4 井口 深大寺	大沢
総数	675	20.8%	19.1%	9.7%	14.0%	16.5%	10.9%	8.9%
要介護1	216	22.6%	19.8%	10.6%	12.4%	16.1%	10.1%	8.3%
要介護2	167	19.2%	20.4%	6.6%	15.6%	17.4%	14.4%	6.6%
要介護3	101	19.8%	11.9%	11.9%	14.9%	19.8%	13.9%	7.9%
要介護4	95	22.9%	22.9%	10.4%	13.5%	10.4%	8.3%	11.5%
要介護5	96	18.8%	18.8%	10.4%	14.6%	18.8%	6.3%	12.5%

表3-2-8 要介護認定者の所得段階

	人数	第1	第2	軽減3	第3	軽減4	第4	第5	第6	第7	第8	第9	第10	第11	第12
総数	675	6.6%	26.6%	6.8%	8.0%	17.0%	5.2%	4.9%	7.8%	11.8%	2.8%	0.7%	0.0%	1.3%	0.4%
要介護1	216	6.5%	19.8%	7.4%	10.1%	17.1%	4.1%	6.9%	8.8%	12.0%	3.7%	1.4%	0.0%	1.8%	0.5%
要介護2	167	9.1%	24.8%	6.7%	10.9%	15.2%	7.3%	3.0%	7.9%	12.7%	0.6%	0.6%	0.0%	0.6%	0.6%
要介護3	101	5.0%	28.7%	9.9%	5.0%	18.8%	3.0%	4.0%	8.9%	11.9%	3.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%
要介護4	95	6.3%	36.5%	2.1%	4.2%	16.7%	6.3%	5.2%	9.4%	9.4%	3.1%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
要介護5	96	5.1%	32.7%	7.1%	5.1%	18.4%	5.1%	4.1%	3.1%	12.2%	4.1%	0.0%	0.0%	2.0%	1.0%

3. 介護・医療に関するニーズ

1) 日常生活動作能力（ADL）と援助者

- 「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排泄」の5項目の日常生活動作（ADL）について、介助を必要とする人の割合を調べた。介助を要する人の割合が最も高かったのは「入浴」で、「一部介助が必要」25.9%と「全面的に介助が必要」44.7%を合わせると、要介護認定者の7割が入浴に介助を要する状態であった。
- 入浴以外のADL項目で一部または全面的に介助を要する人の割合は、「歩行」55.5%、「食事」22.3%、「着替え」47.7%、「排泄」44.7%であった。
- 介助を一部または全面的に要するにもかかわらず、手助けしてくれる人が「誰もいない」という人は要介護認定者においてはほとんどいなかったが、「歩行」に関してはそのような状況の人が2%いた。
- 手助けをしてくれる人は、いずれの項目も「同居家族」や「入居・入院施設の職員」が多く、次いで「介護保険のホームヘルパー」であった。
- 普段の生活の様子は、「まったくの寝たきり」10.9%、「ほとんど寝たきり」9.8%、「日中は寝たり起きたりで、身の回りのことはほとんどできない」15.7%と、身の回りのことがほとんどできず、寝たきりかそれに近い状態の人が4割弱を占めていた。特に要介護5では、49%が「まったくの寝たきり」であった。
- 回答状況に基づいてADL障害の重症度を分類した結果、「ADL障害なし」20.3%、「軽度」22.8%、「中等度」21.0%、「重度」35.9%であった。要介護5では、ADL障害が「重度」の人が90.7%を占めた。

表3-3-1 歩行

	人数	一人で歩ける (杖を使わない)	杖などがあれば 一人で歩ける	物につかまれば (介助されれば) 歩ける	ほとんど歩けない、 まったく歩けない
総数	675	20.0%	24.6%	27.7%	27.7%
要介護1	216	37.0%	39.4%	21.3%	2.3%
要介護2	167	22.9%	28.9%	37.3%	10.8%
要介護3	101	7.8%	24.5%	38.2%	29.4%
要介護4	95	5.3%	6.3%	32.6%	55.8%
要介護5	96	4.2%	2.1%	9.4%	84.4%

表3-3-2 歩行の手助けをしてくれる人（複数回答）←

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー 介護保険サービス	ヘルパー以外の 介護保険サービス	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人 (近所の人以外)	その他	誰もいない
総数 (375人)	57.4%	5.5%	12.8%	4.6%	1.0%	38.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	2.0%

表3-3-3 食事

	人数	ひとりで普通に 食べられる	調理等の工夫で 一人で食べられる	一部介助が 必要	全面的に介助 (経管栄養を含む)
総数	675	58.5%	19.2%	9.7%	12.6%
要介護1	216	82.5%	16.1%	1.4%	0.0%
要介護2	167	69.5%	22.2%	6.6%	1.8%
要介護3	101	57.4%	20.8%	13.9%	7.9%
要介護4	95	32.6%	30.5%	21.1%	15.8%
要介護5	96	12.4%	8.2%	18.6%	60.8%

表3-3-4 食事の手助けをしてくれる人（複数回答）←

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー 介護保険サービス	ヘルパー以外の 介護保険サービス	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人 (近所の人以外)	その他	誰もいない
総数 (149人)	40.0%	6.0%	10.7%	4.3%	1.0%	56.8%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	1.5%	0.0%

表3-3-5 着替え

	人数	普通にできる	ひとりで何とかできるが時間がかかる	一部介助が必要	全面的に介助が必要
総数	675	25.2%	27.1%	21.6%	26.1%
要介護1	216	49.3%	33.2%	15.7%	1.8%
要介護2	167	26.9%	38.9%	26.3%	7.8%
要介護3	101	11.9%	30.7%	30.7%	26.7%
要介護4	95	4.3%	13.8%	27.7%	54.3%
要介護5	96	2.1%	2.1%	11.5%	84.4%

表3-3-6 着替えの手助けをしてくれる人（複数回答）

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の介護保険サービス	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人（近所の人以外）	その他	誰もいない
総数（323人）	58.1%	3.5%	11.3%	2.9%	1.0%	41.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%

表3-3-7 入浴

	人数	普通に入れる	ひとりで何とか入れる	一部介助が必要	全面的に介助が必要	無回答
総数	675	15.5%	13.8%	25.9%	44.7%	0.1%
要介護1	216	33.8%	24.5%	25.5%	16.2%	0.0%
要介護2	167	15.0%	15.0%	38.9%	31.1%	0.0%
要介護3	101	5.9%	8.9%	31.7%	53.5%	0.0%
要介護4	95	0.0%	4.2%	18.9%	75.8%	1.1%
要介護5	96	1.0%	2.1%	5.2%	91.8%	0.0%

表3-3-8 入浴の手助けをしてくれる人（複数回答）

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の介護保険サービス	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人（近所の人以外）	その他	誰もいない
総数（477人）	29.2%	3.5%	22.6%	13.7%	0.8%	37.4%	0.0%	0.2%	0.0%	0.3%	5.2%	0.3%

表3-3-9 排泄

	人数	普通にできる	ひとりで何とかできる	一部介助が必要	全面的に介助が必要
総数	675	29.1%	26.2%	18.5%	26.2%
要介護1	216	54.4%	35.0%	8.3%	2.3%
要介護2	167	34.3%	38.0%	19.9%	7.8%
要介護3	101	17.8%	17.8%	37.6%	26.7%
要介護4	95	2.1%	18.8%	27.1%	52.1%
要介護5	96	2.1%	2.1%	10.4%	85.4%

表3-3-10 排泄の手助けをしてくれる人（複数回答）

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の介護保険サービス	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人（近所の人以外）	その他	誰もいない
総数（302人）	51.9%	4.1%	12.8%	4.1%	0.8%	46.4%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.3%	0.4%

表3-3-11 ふだんの生活の様子

	人数	バス・電車を使って外出	外出は近隣まで	外出しないが身の回りのことはできる	身の回りのことはできるが寝たり起きたり	身の回りのこともできず寝たり起きたり	ほとんど寝たきり	まったく寝たきり
総数	675	7.0%	18.5%	20.3%	17.9%	15.7%	9.8%	10.9%
要介護1	216	13.0%	35.2%	22.7%	23.1%	3.7%	1.9%	0.5%
要介護2	167	7.8%	19.9%	28.9%	19.9%	13.3%	9.6%	0.6%
要介護3	101	5.0%	8.9%	25.7%	21.8%	20.8%	11.9%	5.9%
要介護4	95	0.0%	6.3%	13.7%	11.6%	32.6%	16.8%	18.9%
要介護5	96	1.0%	1.0%	1.0%	5.1%	24.5%	18.4%	49.0%

表3-3-12 身体的障害の重症度

	人数	障害なし	軽度	中等度	重度
総数	675	20.3%	22.8%	21.0%	35.9%
要介護1	216	42.6%	36.1%	16.2%	5.1%
要介護2	167	19.8%	31.1%	26.3%	22.8%
要介護3	101	9.9%	12.9%	34.7%	42.6%
要介護4	95	1.1%	10.5%	22.1%	66.3%
要介護5	96	1.0%	1.0%	7.2%	90.7%

注) 重症度の分類方法は、第2章の1)【身体的障害の重症度分類の基準】を参照。

2) 手段的日常生活動作能力 (IADL) と援助者

- 「部屋の掃除」「洗濯」「食事のしたく」「買い物」の4項目の手段的日常生活動作 (IADL) について、介助を必要とする人の割合を調べた。すべての項目について8割以上の人の一部または全面的に介助を必要としており、特に「買い物」については一部または全面的な介助を要する人が85.4%であった。
- 「ケガや事故がないように、または急に体調が悪くなった時などのために誰かからの見守りが必要か」については、「常に必要」という人が50.7%、「時々、必要」は30.1%で、特に「要介護5」の人では「常に必要」が87.6%、「時々、必要」が10.3%と、ほとんどの人が見守りを要する状況であった。
- これらの項目について一部または全面的な介助を要する人 (見守りについては時々または常に必要な人) に、誰から手助け (または見守り) をしてもらっているか質問した結果、いずれの項目も「同居家族」が最も多く、次いで「入居・入院している施設の職員」や「介護保険のホームヘルパー」であった。
- 一部または全面的な介助を要する状態 (見守りについては時々または常に必要な状態) であるにもかかわらず、手助け (または見守り) をしてくれる人が「誰もいない」という要介護認定者はほとんどいなかった。「誰もいない」の割合が一番高かったのは、「見守り」1.6%であった。

表3-3-13 部屋の掃除

	人数	できる	できるけどしていない	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要
総数	675	7.8%	9.9%	12.4%	69.9%
要介護1	216	13.8%	18.9%	20.7%	46.5%
要介護2	167	10.8%	7.2%	15.1%	66.9%
要介護3	101	3.9%	8.8%	4.9%	82.4%
要介護4	95	0.0%	4.2%	9.4%	86.5%
要介護5	96	1.0%	1.0%	0.0%	97.9%

表3-3-14 部屋の掃除の手助けをしてくれる人 (複数回答) ←

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー	ヘルパー以外の 介護保険サービス	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	ZOO、ボランティア	近所の人	友人・知人 (近所の人以外)	その他	誰もいない
総数 (557人)	55.7%	5.5%	17.1%	0.6%	0.9%	26.8%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%

表3-3-15 洗濯

	人数	できる	できるけどしていない	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要
総数	675	14.5%	6.5%	10.9%	68.1%
要介護1	216	26.4%	11.1%	21.8%	40.7%
要介護2	167	19.8%	7.2%	9.6%	63.5%
要介護3	101	5.0%	5.0%	5.0%	85.1%
要介護4	95	2.1%	3.1%	4.2%	90.6%
要介護5	96	1.0%	0.0%	2.1%	96.9%

表3-3-16 洗濯の手助けをしてくれる人（複数回答）←

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー 介護保険サービス	ヘルパー以外の 介護保険サービス	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人 (近所の人以外)	その他	誰もいない
総数 (533人)	62.0%	7.0%	9.9%	0.5%	0.1%	25.8%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	1.0%	0.9%

表3-3-17 食事のしたく

	人数	できる	できるけどしていない	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要
総数	675	10.2%	7.4%	10.1%	72.3%
要介護1	216	19.0%	13.0%	19.4%	48.6%
要介護2	167	12.0%	7.8%	9.6%	70.7%
要介護3	101	5.0%	5.0%	5.9%	84.2%
要介護4	95	1.1%	4.2%	3.2%	91.6%
要介護5	96	2.1%	0.0%	1.0%	96.9%

表3-3-18 食事のしたくの手助けをしてくれる人（複数回答）←

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー 介護保険サービス	ヘルパー以外の 介護保険サービス	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人 (近所の人以外)	その他	誰もいない
総数 (557人)	59.6%	6.8%	9.2%	1.1%	2.6%	29.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	2.7%	0.2%

表3-3-19 買い物

	人数	できる	できるけどしていない	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要	無回答
総数	675	9.2%	5.3%	10.1%	75.3%	0.1%
要介護1	216	17.1%	9.3%	19.4%	53.7%	0.5%
要介護2	167	10.2%	5.4%	10.8%	73.5%	0.0%
要介護3	101	5.0%	5.0%	5.0%	85.1%	0.0%
要介護4	95	1.1%	2.1%	3.2%	93.7%	0.0%
要介護5	96	2.1%	0.0%	0.0%	97.9%	0.0%

表3-3-20 買い物の手助けをしてくれる人（複数回答）←

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー 介護保険サービス	ヘルパー以外の ヘルパー	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人 (近所の人以外)	その他	誰もいない
総数 (576人)	64.0%	10.5%	12.2%	0.4%	0.1%	22.4%	0.0%	0.2%	0.0%	0.5%	2.1%	0.5%

表3-3-21 見守り

	人数	まったく必要ない	あまり必要ではない	時々、必要	常に必要
総数	675	3.0%	16.2%	30.1%	50.7%
要介護1	216	6.9%	27.6%	44.2%	21.2%
要介護2	167	2.4%	19.8%	28.7%	49.1%
要介護3	101	1.0%	7.9%	27.7%	63.4%
要介護4	95	0.0%	7.4%	23.2%	69.5%
要介護5	96	0.0%	2.1%	10.3%	87.6%

表3-3-22 見守りをしてくれる人（複数回答）←

	同居の家族	別居の親族	介護保険のヘルパー 介護保険サービス	ヘルパー以外の ヘルパー	全額自費のサービス	入居・入院施設の職員	シルバー人材センター	NPO、ボランティア	近所の人	友人・知人 (近所の人以外)	その他	誰もいない
総数 (546人)	59.7%	9.9%	11.6%	2.2%	1.1%	32.1%	0.0%	0.4%	0.4%	0.2%	1.0%	1.6%

3) 認知機能障害

- 認知機能障害の程度を調べる16項目^(注)に基づいて分類した結果、要介護認定者では「認知機能障害なし」48.6%、「軽度」17.0%、「中等度」25.0%、「重度」9.5%という状況であった。要介護度が重くなるほど認知機能障害が重い人の割合が増え、「要介護5」では5割強が中等度以上の認知機能障害を有していた。
- 表3-3-12に示したADL障害と認知機能障害の重症度を組み合わせた類型をみると、「身体(ADL)障害が軽度以下で、認知機能障害も軽度以下」が34.3%、「身体(ADL)障害が中・重度で、認知機能障害は軽度以下」31.4%、「身体(ADL)障害が軽度以下で、認知機能障害は中・重度」9.0%、「身体(ADL)障害、認知機能障害ともに中・重度」25.3%という状況であった。「要介護5」では「身体・認知機能ともに中・重度」が5割を占めていた。

(注) 要介護認定者/介護者調査の調査票の間20の(1)～(16)を使用した。16項目中、「該当項目なし」=認知機能障害なし、「1～2項目該当」=軽度、「3～7項目該当」=中等度、「8項目以上該当」=重度、とした。(出典：『高齢者の家族介護と介護サービスニーズ』東京都老人総合研究所社会福祉部門編，1996)

表3-3-23 認知機能障害の重症度

	人数	障害なし	軽度	中等度	重度
総数	675	48.6%	17.0%	25.0%	9.5%
要介護1	216	67.1%	18.1%	12.5%	2.3%
要介護2	167	48.5%	16.8%	26.9%	7.8%
要介護3	101	36.6%	17.8%	33.7%	11.9%
要介護4	95	37.5%	16.7%	32.3%	13.5%
要介護5	96	30.9%	14.4%	33.0%	21.6%

注) 認知機能障害の重症度の分類は、『高齢者の家族介護と介護サービスニーズ』東京都老人総合研究所社会福祉部門編(1996)に基づいて分類した。

表3-3-24 ADL障害と認知機能障害の類型

	人数	身体(軽度以下) 認知(軽度以下)	身体(中度以上) 認知(軽度以下)	身体(軽度以下) 認知(中度以上)	身体(中度以上) 認知(中度以上)
総数	675	34.3%	31.4%	9.0%	25.3%
要介護1	216	68.7%	16.1%	10.1%	5.1%
要介護2	167	36.5%	28.7%	14.4%	20.4%
要介護3	101	14.9%	39.6%	8.9%	36.6%
要介護4	95	6.3%	48.4%	5.3%	40.0%
要介護5	96	1.0%	44.8%	1.0%	53.1%

注) ADL障害の重症度の分類は、表3-3-12を参照。

4) 認知症の相談、成年後見人

- 認知症の症状を調べる項目（問20）に1つ以上該当した人に、認知症について相談した人がいるか否かを質問した結果、「誰もいない」という人が20.2%であった。要介護度が重くなるに従って「誰もいない」という人の割合は減少し、要介護5では15.1%であった。
- 相談相手は「医師」が最も多く（70.9%）、次いで「ケアマネジャー」であった（38.0%）。いずれの介護度においても「医師」に相談する割合が最も高いが、要介護1では「ケアマネジャー」「家族、親族、友人、知人」「地域包括支援センター職員」の割合が相対的に高く、要介護度が重くなるに従って、これらの割合は減少して、「医師」や「看護師」の割合が相対的に増加していた。
- 認知症の症状を調べる項目（問20）に1つ以上該当した人に、「金銭管理などのお手伝いをする成年後見人を利用したいか」と質問した結果、「利用したくない」という回答が80.9%と多数であった。「利用したくない」の割合が相対的に低いのは要介護2と要介護3で、これらの人では「必要になったら利用を検討したい」の割合が相対的に高かった。

表3-3-25 認知症について相談した人（複数回答）

	人数	医師	看護師	ケアマネジャー	ヘルパーやデイ等介護職員	地域包括支援センターの職員	家族、親族友人、知人	その他	誰もいない
総数	379	70.9%	7.5%	38.0%	12.5%	10.9%	24.2%	0.2%	20.2%
要介護1	86	69.0%	4.7%	42.5%	12.8%	17.4%	36.0%	0.0%	22.1%
要介護2	90	65.6%	3.3%	35.6%	7.7%	10.0%	14.4%	0.0%	22.2%
要介護3	68	69.1%	4.4%	42.0%	19.1%	13.0%	27.9%	0.0%	23.5%
要介護4	62	77.4%	14.3%	35.5%	14.5%	7.9%	21.0%	1.6%	17.5%
要介護5	73	75.3%	13.7%	34.7%	11.0%	5.5%	20.5%	0.0%	15.1%

注) 認知症の症状を調べる項目(問20)に1つ以上該当した人を分析対象とした。

表3-3-26 成年後見人の利用意向

	人数	すでに利用している	すぐに利用したい	必要になったら利用を検討したい	利用したくない	無回答
総数	379	3.3%	0.2%	11.8%	80.9%	3.7%
要介護1	86	3.4%	0.0%	8.0%	87.4%	1.1%
要介護2	90	3.3%	0.0%	22.0%	67.0%	7.7%
要介護3	68	2.9%	1.4%	14.5%	78.3%	2.9%
要介護4	62	6.5%	0.0%	4.8%	85.5%	3.2%
要介護5	73	2.7%	0.0%	6.8%	87.7%	2.7%

注) 認知症の症状を調べる項目(問20)に1つ以上該当した人を分析対象とした。

5) 通院・受療状況

- 要介護認定者の通院・受療状況は、「通院」63.9%、「往診」11.7%、「入院・入所」23.3%、「医師の診察は受けていない」3.6%という状況であった。要介護度が重くなるに従って「通院」の割合は激減し、「入院・入所」が増加していた。「要介護5」では「通院」18.8%、「往診」27.1%、「入院・入所」57.3%であった。
- 通院している人に通院時の交通手段と付き添いについて質問した。交通手段は「徒歩」29.6%、「バス・電車」18.8%、「タクシー」39.2%、「自家用車」30.7%で、タクシーや自家用車を利用する人が7割を占めていた。
- 通院時の付き添いは「家族・親族」が74.1%で最も多いが、「誰もいない」という人も2割程度いた。

表3-3-27 通院・受療状況（複数回答）

	人数	通院している	往診してもらっている	入院・入所している	医師の診察は受けていない
総数	675	63.9%	11.7%	23.3%	3.6%
要介護1	216	85.2%	3.2%	9.3%	3.7%
要介護2	167	78.4%	9.6%	12.7%	3.0%
要介護3	101	58.4%	10.9%	25.7%	5.9%
要介護4	95	41.7%	20.0%	36.5%	3.1%
要介護5	96	18.8%	27.1%	57.3%	2.1%

→ 表3-3-28 通院時の交通手段（複数回答）

	徒歩	バス・電車	タクシー	自家用車
総数（432人）	29.6%	18.8%	39.2%	30.7%

→ 表3-3-29 通院時の付き添い（複数回答）

	家族・親族	ヘルパー	その他	誰もいない
総数（416人）	74.1%	5.7%	3.0%	19.9%

6) 医療処置

- 要介護認定者の2割強は何らかの医療処置が必要な状態で、特に要介護5では5割の人が医療処置を要する状態であった。要介護5の人で多い医療処置は、「床ずれ」「経管栄養」「吸引」で、2割弱の人が行っていた。
- 医療処置を行っているのは、「入院・入所先の医師・看護師」が最も多かった(40.7%)。入院・入所先や通院先の医療従事者以外では、「家族」25.2%、「訪問看護師」14.5%、「往診医」12.7%、「本人」11.3%という状況であった。
- 医療処置に関して、「家族が医療処置を行うのは精神的な負担が大きい」と感じている人は5割であった(「そう思う」30.9%と「まあそう思う」19.7%の合計)。「現在、行っている医療処置が本人にとって適切なのか不安を感じる」「医師・看護師は、家族に医療処置についてもっとくわしく説明してほしい」と思っている人も、それぞれ2割程度いた。

表3-3-30 医療処置 (複数回答)

	人数	床ずれ	経管栄養	気管切開	吸引器	膀胱カテーテル	酸素療法	人工呼吸器	自己導尿	人工透析	自己注射	人工肛門	I V H	その他	医療処置なし
総数	675	6.1%	4.0%	0.9%	3.0%	2.8%	1.8%	0.1%	1.3%	2.1%	1.6%	0.9%	0.4%	6.4%	77.5%
要介護1	216	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	2.3%	3.7%	1.9%	0.5%	0.0%	3.7%	87.0%
要介護2	167	2.4%	0.0%	0.0%	1.8%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	2.4%	1.8%	0.0%	6.6%	84.9%
要介護3	101	8.9%	2.0%	0.0%	1.0%	3.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.0%	0.0%	8.9%	77.2%
要介護4	95	9.5%	6.3%	0.0%	1.1%	7.4%	3.1%	0.0%	1.1%	1.0%	1.1%	1.0%	1.1%	3.1%	71.9%
要介護5	96	18.8%	19.8%	6.3%	15.6%	7.2%	5.2%	1.0%	3.1%	2.1%	1.0%	0.0%	2.1%	12.4%	49.5%

表3-3-31 医療処置は誰がしているか (複数回答)

	人数	本人	家族	訪問看護師	往診医	通院先の医師・看護師	入院・入所先の医師・看護師	その他
総数	147	11.3%	25.2%	14.5%	12.7%	22.1%	40.7%	1.0%

注) 医療処置を調べる項目(問22)に1つ以上該当した人(147人)を分析対象とした。

表3-3-32 医療処置に関して、どのように思うか

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	不明・無回答
家族が医療処置を行うのは精神的な負担が大きい	30.9%	19.7%	15.4%	15.9%	18.1%
現在、行っている医療処置が本人にとって適切なのか不安を感じる	10.6%	10.9%	29.8%	37.3%	11.4%
医師・看護師は、家族に医療処置についてもっとくわしく説明してほしい	6.7%	10.6%	32.6%	44.4%	5.6%

注) 医療処置を調べる項目(問22)に1つ以上該当した人(147人)を分析対象とした。

4. 介護保険・福祉サービス等に関するニーズと評価

1) 要介護認定

- 認定結果には「非常に満足」27.4%、「わりと満足」51.6%で、要介護認定者の8割が肯定的に評価していた。要介護度が重くなるほど、認定結果に対する満足度は高まる傾向が見られ、要介護5では「非常に/わりと満足」という評価が86.6%を占めた。

表3-4-1 認定結果の満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総数	675	27.4%	51.6%	12.5%	3.8%	4.6%
要介護1	216	25.0%	54.6%	11.1%	5.1%	4.2%
要介護2	167	19.2%	54.5%	16.8%	5.4%	4.2%
要介護3	101	21.6%	52.9%	18.6%	2.0%	4.9%
要介護4	95	29.2%	55.2%	9.4%	2.1%	4.2%
要介護5	96	51.5%	35.1%	5.2%	2.1%	6.2%

2) ケアマネジャー・ケアプラン

- 要介護認定者のうち、ケアマネジャーが「いる」と回答したのは87.5%であった。要介護度が重くなるほど「いる」と回答する割合が減少しており、病院や施設に入院・入所している人ではケアマネジャーの利用が少なくなることを表している。
- ケアマネジャーがいると回答した人に、ケアマネジャーと連絡を取り合う頻度を質問したところ、要介護認定者の87.8%が「月に1回以上」と答えていた。
- ケアマネジャーに関する評価を具体的な項目に即して質問したところ、「介護のことについて、いつも相談にのってくれる」「サービスや制度について、わかりやすく説明してくれる」「いつも〇〇さん（調査対象者）や家族の立場になって、一緒に考えてくれる」については9割の利用者が肯定的な評価をしていた。一方、「こちらから連絡しなくても、ときどき様子をうかがう訪問や電話をしてくれる」については76.2%にとどまった。ケアマネジャーに対する評価に関しては、要介護度による違いはなかった。
- ケアマネジャーに対する全体的な満足度は、「非常に満足」48.0%、「わりと満足」42.9%で、9割の利用者が肯定的な評価をしていた。要介護度による顕著な違いはなかった。
- ケアプランに対する満足度を全員に質問したところ、「非常に満足」31.7%、「わりと満足」47.3%で、8割近い利用者が肯定的な評価をしていた。どちらかという、要介護度が軽度の方が、ケアプランに対する満足度が若干低い傾向が見られた。

表3-4-2 ケアマネジャーの有無

	人数	いる	いない	無回答
総数	675	87.5%	11.4%	1.0%
要介護1	216	88.4%	11.1%	0.5%
要介護2	167	94.6%	5.4%	0.0%
要介護3	101	86.1%	11.9%	2.0%
要介護4	95	86.3%	12.6%	1.1%
要介護5	96	76.0%	20.8%	3.1%

表3-4-3 ケアマネジャーと連絡を取り合う頻度

	人数	月に1回以上	2、3カ月に1回	年に2、3回	それより少ない	無回答
総数	590	87.8%	4.8%	1.9%	3.9%	1.7%
要介護1	191	86.8%	4.7%	2.1%	4.2%	2.1%
要介護2	157	89.8%	5.7%	0.0%	2.5%	1.9%
要介護3	87	89.7%	4.6%	3.4%	2.3%	0.0%
要介護4	82	87.8%	4.9%	2.4%	3.7%	1.2%
要介護5	73	83.6%	2.7%	2.7%	8.2%	2.7%

注) ケアマネジャーがいると答えた人に質問した。

表3-4-4 ケアマネジャーに関する評価

	総数	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
介護のことについて、いつも相談にのってくれる	90.5%	89.5%	91.1%	90.8%	91.5%	90.3%
サービスや制度について、わかりやすく説明してくれる	89.2%	88.0%	89.8%	89.7%	91.5%	87.7%
サービスを選ぶ際などに、わからないときや迷ったときなどは的確に判断を下してくれる	88.1%	85.9%	89.2%	87.5%	90.2%	90.3%
こちらから連絡しなくても、ときどき様子をうかがう訪問や電話をしてくれる	76.2%	78.0%	75.8%	73.6%	76.5%	75.3%
ケアマネジャー自身の判断や決定を、強引に押しつけようとする	7.1%	6.3%	7.0%	9.1%	7.4%	6.8%
いつも〇〇さん(本人)や家族の立場になって、一緒に考えてくれる	88.8%	88.0%	89.2%	87.5%	91.5%	89.0%
サービスの内容についての不平や不満を聞いてくれる	82.3%	78.5%	86.6%	78.2%	84.1%	86.1%
サービスの内容の変更には、あまり応じてくれない	12.3%	11.5%	14.0%	18.2%	6.1%	10.8%

注) ケアマネジャーがいると答えた人に質問した。(各介護度の人数は表 3-4-3 と同じ)

次ページの表3-4-5 【ケアマネジャーに対する満足度】へ

↳ 表3-4-5 ケアマネジャーに対する満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総数	590	48.0%	42.9%	3.9%	2.4%	2.9%
要介護1	191	44.5%	45.5%	2.6%	3.7%	3.7%
要介護2	157	49.0%	42.0%	3.2%	2.5%	3.2%
要介護3	87	54.0%	35.6%	6.9%	1.1%	2.3%
要介護4	82	50.0%	40.0%	7.5%	1.3%	1.3%
要介護5	73	45.2%	49.3%	1.4%	1.4%	2.7%

注) ケアマネジャーがいると答えた人に質問した。

表3-4-6 ケアプランに対する満足度

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総数	675	31.7%	47.3%	8.8%	2.5%	9.7%
要介護1	216	30.2%	45.1%	11.2%	2.3%	11.2%
要介護2	167	27.7%	55.4%	7.8%	4.2%	4.8%
要介護3	101	31.7%	48.5%	9.9%	3.0%	6.9%
要介護4	95	37.2%	42.6%	7.4%	1.1%	11.7%
要介護5	96	36.5%	41.7%	5.2%	1.0%	15.6%

注) 全員に質問した。

3) ショートステイ

- 要介護認定者のショートステイ利用率は27.0%であった。要介護3と4で利用率が高く、4割がショートステイを利用していた。
- 利用希望者は要介護認定者全体では39.8%で、要介護3や4で利用希望も高く、5割強がショートステイの利用を希望していた。
- 希望者が利用できている割合は、要介護認定者全体では67.7%で、要介護度が重くなるに従って希望者が利用できている割合も高まっていた。
- ショートステイを利用していない人も含めた要介護認定者総数を分母とした場合の利用回数の平均値は、年に1.27回であった。要介護4で利用回数が最も多かった。
- 要介護認定者総数を分母とした場合のショートステイの利用希望回数は、平均して年に2.23回であった。要介護4で利用希望回数は最も多かった。
- 利用回数の平均値と利用希望回数の平均値を基に算出した「利用希望回数の充足度」は、57.2%であった。要介護度が重いほど、充足度は高くなっていた。
- ショートステイを利用したことがある人に全体的な満足度を評価してもらったところ、「非常に満足」26.5%、「わりと満足」46.4%で、7割は肯定的な評価をしていた。要介護5では「あまり/全然満足していない」という回答が28.6%で、他の要介護度と比べて若干満足度が低かった。

表3-4-7 ショートステイの利用と利用希望の割合

	人数	利用者の割合	利用希望者の割合	希望者が利用できている割合
総数	675	27.0%	39.8%	67.7%
要介護1	216	10.1%	25.5%	39.3%
要介護2	167	26.3%	42.8%	62.0%
要介護3	101	41.0%	51.0%	80.4%
要介護4	95	42.1%	55.8%	75.5%
要介護5	96	36.8%	39.6%	92.1%

表3-4-8 ショートステイの利用希望回数の充足度

	人数	利用回数 平均値(回/年)	利用希望回数 平均値(回/年)	充足度 (%)
総数	675	1.27	2.23	57.2
要介護1	216	0.25	0.09	27.8
要介護2	167	1.29	2.48	51.8
要介護3	101	2.04	3.24	63.1
要介護4	95	2.36	3.70	63.8
要介護5	96	1.75	2.63	66.4

注)対象者全体の平均値(ショートステイを利用していない人も含む)を示した(回数が明確でない人は除外).
充足度は「利用回数÷利用希望回数×100」で算出.

表3-4-9 ショートステイの満足度(利用者のみ)

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総数	181	26.5%	46.4%	17.7%	3.9%	5.5%
要介護1	21	33.3%	42.9%	14.3%	4.8%	4.8%
要介護2	43	37.2%	39.5%	20.9%	0.0%	2.3%
要介護3	42	21.4%	52.4%	16.7%	4.8%	4.8%
要介護4	40	27.5%	45.0%	12.5%	5.0%	10.0%
要介護5	35	14.3%	51.4%	22.9%	5.7%	5.7%

4) 訪問介護（ホームヘルパー）

- 要介護認定者における訪問介護サービス（ホームヘルパー）の利用率は30.0%であった。要介護1で最も利用率が高く、34.0%であった。
- 利用希望者の割合は38.7%であった。要介護度が軽いほど訪問介護の利用希望率は高く、要介護1では45.8%であった。
- 希望者が利用できている割合は77.8%であった。要介護度が重い方が、希望者が利用できている割合も高い傾向があり、要介護1では73.7%であるのに対して要介護5では90.0%であった。
- 訪問介護を利用していない人も含めた要介護認定者総数を分母とした場合の訪問介護の利用回数の平均値は、週に1.08回であった。要介護度が重いほど、利用回数も多くなっていた。
- 要介護認定者総数を分母とした場合の訪問介護の利用希望回数は、平均して週に1.25回であった。要介護度が重いほど、利用希望回数も多く、要介護5の利用希望回数の平均値は週に2.02回であった。
- 利用回数の平均値と利用希望回数の平均値を基に算出した「利用希望回数の充足度」は、86.1%であった。要介護3以上では、ほぼ100%の充足度であった。
- 訪問介護サービスの利用者に全体的な満足度を評価してもらったところ、「非常に満足」38.6%、「わりと満足」47.5%で、86.1%は肯定的な評価をしていた。要介護度による大きな違いはなかった。

表3-4-10 訪問介護の利用と利用希望の割合

	人数	利用者の割合	利用希望者の割合	希望者が利用 できている割合
総数	675	30.0%	38.7%	77.8%
要介護1	216	34.0%	45.8%	73.7%
要介護2	167	31.3%	41.3%	75.4%
要介護3	101	27.7%	34.0%	82.4%
要介護4	95	24.5%	31.6%	79.3%
要介護5	96	28.1%	30.2%	90.0%

表3-4-11 訪問介護の利用希望回数の充足度

	人数	利用回数 平均値(回/週)	利用希望回数 平均値(回/週)	充足度(%)
総数	675	1.08	1.25	86.1
要介護1	216	0.73	1.06	68.9
要介護2	167	0.90	1.16	77.3
要介護3	101	1.19	1.18	101.2
要介護4	95	1.19	1.20	99.0
要介護5	96	1.95	2.02	96.7

注)対象者全体の平均値(訪問介護を利用していない人も含む)を示した(回数が明確でない人は除外).

充足度は「利用回数÷利用希望回数×100」で算出.

表3-4-12 訪問介護の満足度(利用者のみ)

	人数	非常に 満足	わりと 満足	あまり満足 していない	全然満足 していない	無回答
総数	203	38.6%	47.5%	9.4%	0.5%	4.0%
要介護1	73	44.4%	38.9%	11.1%	1.4%	4.2%
要介護2	51	35.3%	51.0%	7.8%	0.0%	5.9%
要介護3	29	31.0%	58.6%	6.9%	0.0%	3.4%
要介護4	23	17.4%	69.6%	8.7%	0.0%	4.3%
要介護5	27	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%

5) 通所サービス（デイサービス・デイケア）

- 要介護認定者における通所サービス（デイサービスやデイケア）の利用率は42.9%であった。要介護1～3の人で利用率が高く、半数近くが利用していた。
- 利用希望者の割合は48.8%であった。要介護1～3で利用希望が高く、55%前後が希望していた。
- 希望者が利用できている割合は87.6%であった。要介護1～4では利用希望者の85～90%が利用できていたが、要介護5で利用できていたのは、希望者の8割程度であった。
- 通所サービスを利用していない人も含めた要介護認定者総数を分母とした場合の通所サービスの利用回数の平均値は、週に1.06回であった。要介護3で最も利用回数が多かった。
- 要介護認定者総数を分母とした場合の通所サービスの利用希望回数は、平均して週に1.39回であった。要介護2や3で利用希望回数が多かった。
- 利用回数の平均値と利用希望回数の平均値を基に算出した「利用希望回数の充足度」は、76.1%であった。要介護3で最も充足度が高く（84.4%）、要介護1、2、4では75%程度で、要介護5では61.6%であった。
- 通所サービスの利用者に全体的な満足度を評価してもらったところ、「非常に満足」38.8%、「わりと満足」56.7%で、95.5%は肯定的な評価をしていた。

表3-4-13 通所サービスの利用と利用希望の割合

	人数	利用者の割合	利用希望者の割合	希望者が利用できている割合
総数	675	42.9%	48.8%	87.6%
要介護1	216	45.8%	53.7%	85.3%
要介護2	167	50.9%	57.2%	88.5%
要介護3	101	51.0%	55.4%	91.1%
要介護4	95	37.9%	42.1%	90.0%
要介護5	96	18.8%	22.9%	81.8%

表3-4-14 通所サービスの利用希望回数の充足度

	人数	利用回数 平均値(回/週)	利用希望回数 平均値(回/週)	充足度 (%)
総数	675	1.06	1.39	76.1
要介護1	216	1.01	1.34	75.8
要介護2	167	1.29	1.72	74.9
要介護3	101	1.48	1.76	84.4
要介護4	95	0.96	1.29	74.6
要介護5	96	0.42	0.68	61.6

注)対象者全体の平均値(通所サービスを利用していない人も含む)を示した(回数が明確でない人は除外)。
充足度は「利用回数÷利用希望回数×100」で算出。

表3-4-15 通所サービスの満足度(利用者のみ)

	人数	非常に満足	わりと満足	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
総数	289	38.8%	56.7%	2.7%	0.3%	1.4%
要介護1	99	32.7%	66.3%	1.0%	0.0%	0.0%
要介護2	85	46.5%	46.5%	3.5%	0.0%	3.5%
要介護3	51	44.2%	48.1%	3.8%	1.9%	1.9%
要介護4	36	38.9%	61.1%	0.0%	0.0%	0.0%
要介護5	18	21.1%	68.4%	10.5%	0.0%	0.0%

6) 訪問看護

- 要介護認定者における訪問看護サービスの利用率は14.2%であった。要介護度が重くなるほど利用率が増え、要介護5では25.8%であった。
- 利用希望者の割合は21.8%であった。要介護度が重くなるほど利用希望者の割合も増え、要介護5では29.2%が訪問看護の利用を希望していた。
- 希望者が利用できている割合は64.4%であった。要介護5では希望者の86%が利用できていたが、それ以外の介護度では希望者が利用できている割合は5～7割程度であった。
- 訪問看護を利用していない人も含めた要介護認定者総数を分母とした場合の訪問看護サービスの利用回数の平均値は、月に0.68回であった。要介護度が重くなるほど、利用回数は多くなっていた。
- 要介護認定者総数を分母とした場合の訪問看護サービスの利用希望回数は、平均して月に0.75回であった。要介護4で利用希望回数が最も多かった。
- 利用回数の平均値と利用希望回数の平均値を基に算出した「利用希望回数の充足度」は、91.1%であった。要介護2と5では充足度が100%を超えていたが、それ以外の介護度では7～8割程度であった。
- 訪問看護サービスの利用者に全体的な満足度を評価してもらったところ、「非常に満足」53.7%、「わりと満足」42.1%で、利用者が少ないものの評価は非常に高かった。

表3-4-16 訪問看護の利用と利用希望の割合

	人数	利用者の割合	利用希望者の割合	希望者が利用 できている割合
総数	675	14.2%	21.8%	64.4%
要介護1	216	9.3%	16.2%	57.1%
要介護2	167	9.6%	19.2%	50.0%
要介護3	101	15.8%	26.0%	59.3%
要介護4	95	20.0%	27.7%	73.1%
要介護5	96	25.8%	29.2%	86.2%

表3-4-17 訪問看護の利用希望回数の充足度

	人数	利用回数 平均値(回/月)	利用希望回数 平均値(回/月)	充足度(%)
総数	675	0.68	0.75	91.1
要介護1	216	0.33	0.40	82.0
要介護2	167	0.55	0.45	120.5
要介護3	101	0.66	0.91	72.8
要介護4	95	1.06	1.42	74.5
要介護5	96	1.36	1.24	110.0

注)対象者全体の平均値(訪問看護を利用していない人も含む)を示した(回数が明確でない人は除外)。

充足度は「利用回数÷利用希望回数×100」で算出。

表3-4-18 訪問看護の満足度(利用者のみ)

	人数	非常に 満足	わりと 満足	あまり満足 していない	全然満足 していない	無回答
総数	95	53.7%	42.1%	1.1%	3.2%	0.0%
要介護1	19	47.4%	47.4%	0.0%	5.3%	0.0%
要介護2	16	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%	0.0%
要介護3	16	43.8%	50.0%	0.0%	6.3%	0.0%
要介護4	20	55.0%	40.0%	0.0%	5.0%	0.0%
要介護5	24	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

7) その他の介護保険・福祉等サービス

- その他の介護保険等のサービスのうち、利用率が高いのは「福祉用具の貸与・支給」53.0%、「住宅改修費の助成」40.6%であった。一部を除いて、ほとんどのサービスで要介護度が重いほど利用率は高くなっていた。
- 利用希望者の割合が高いのも、「福祉用具の貸与・支給」52.1%と「住宅改修費の助成」34.5%であった。「訪問診療」28.0%や「訪問リハビリ」21.8%、「訪問入浴介護」16.2%も、2割前後の利用希望があった。

表3-4-19 その他の介護保険等サービスの利用者の割合

	人数	訪問入浴介護	訪問リハビリ	夜間対応型訪問介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	福祉用具の貸与・支給	住宅改修費の助成	訪問診療
総数	675	12.4%	21.2%	1.5%	3.0%	2.2%	1.3%	0.7%	53.0%	40.6%	17.8%
要介護1	216	5.1%	14.4%	0.5%	1.9%	1.9%	0.0%	0.5%	38.0%	35.9%	7.4%
要介護2	167	9.6%	20.5%	0.6%	1.8%	3.0%	1.8%	0.6%	52.4%	40.6%	10.8%
要介護3	101	15.8%	25.0%	0.0%	3.0%	2.0%	3.0%	1.0%	66.7%	48.0%	24.0%
要介護4	95	20.0%	26.0%	3.1%	4.2%	1.1%	1.1%	0.0%	63.8%	45.3%	26.3%
要介護5	96	22.9%	29.2%	5.2%	6.3%	3.1%	2.1%	2.1%	62.5%	38.5%	38.5%

表3-4-20 その他の介護保険等サービスの利用希望者の割合

	人数	訪問入浴介護	訪問リハビリ	夜間対応型訪問介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	複合型サービス	福祉用具の貸与・支給	住宅改修費の助成	訪問診療
総数	675	16.2%	21.8%	7.9%	8.0%	8.1%	7.1%	6.7%	52.1%	34.5%	28.0%
要介護1	216	8.3%	15.7%	5.6%	6.9%	5.1%	3.7%	3.7%	46.1%	35.5%	14.8%
要介護2	167	19.9%	23.8%	10.9%	9.6%	15.7%	12.7%	12.7%	58.7%	40.1%	36.7%
要介護3	101	17.0%	25.5%	7.0%	7.9%	7.9%	10.0%	8.9%	58.4%	40.0%	29.7%
要介護4	95	19.1%	27.4%	7.4%	6.3%	6.3%	7.3%	5.3%	54.7%	29.5%	31.6%
要介護5	96	24.0%	22.7%	9.4%	9.5%	4.1%	2.1%	2.1%	45.4%	21.6%	37.5%

8) サービス利用料の負担感

- サービス利用料の自己負担（1割）が家計にとってどの程度負担になっているかを質問した結果、「非常に負担」13.9%、「多少負担」35.5%で、両者を合計すると49.4%がサービス利用料を負担に感じていた。
- 認定状況別にみると、「非常に、または多少負担」と答えた人の割合は要介護度が重くなるほど増え、要介護5では58.3%が「非常に、または多少負担」に感じていた。

表3-4-21 サービス利用料の負担感

	人数	非常に負担	多少負担	あまり負担 ではない	まったく負担 ではない	無回答
総数	591	13.9%	35.5%	32.7%	14.0%	3.9%
要介護1	178	6.7%	36.0%	40.4%	12.9%	3.9%
要介護2	150	14.7%	28.0%	36.0%	18.7%	2.7%
要介護3	90	13.3%	44.4%	26.7%	11.1%	4.4%
要介護4	89	18.0%	39.3%	28.1%	10.1%	4.5%
要介護5	84	23.8%	34.5%	21.4%	15.5%	4.8%

注) 「サービスを利用していない」や「サービス利用料を払っていない」と回答した人は除外。

9) 施設サービス

- ・ 特別養護老人ホームの利用希望は、「入所中」2.1%、「入所申請中」5.8%、「すぐにも入所を希望」6.1%、「入所を検討したい」12.8%で、入所中または希望・検討している人は26.8%であった。この割合が最も高かったのは要介護3の人であった(37.7%)。
- ・ 老人保健施設の利用希望は、「入所中」6.5%、「すぐにも入所を希望」3.3%、「入所を検討したい」11.7%で、入所中または希望・検討している人は21.5%であった。この割合が最も高かったのは要介護3の人であった(35.0%)。
- ・ 療養型医療施設の利用希望は、「入院中」2.7%、「すぐにも入院を希望」2.8%、「入院を検討したい」13.2%で、入院中または希望・検討している人は18.7%であった。この割合は要介護2の人で最も高く(24.2%)、要介護3～5でも2割強であった。

表3-4-22 特別養護老人ホームの利用希望

	人数	入所中	申請中	すぐにも入所希望	入所を検討したい	なるべく入所したくない	絶対入所したくない	入所の必要ない	無回答
総数	675	2.1%	5.8%	6.1%	12.8%	19.9%	4.2%	47.3%	1.9%
要介護1	216	0.5%	1.4%	1.9%	9.3%	24.5%	4.2%	56.9%	1.4%
要介護2	167	1.8%	5.4%	5.4%	19.9%	19.3%	3.0%	44.6%	0.6%
要介護3	101	3.0%	9.9%	9.9%	14.9%	15.8%	5.0%	39.6%	2.0%
要介護4	95	3.2%	11.6%	7.4%	13.7%	18.9%	1.1%	42.1%	2.1%
要介護5	96	4.2%	6.3%	11.6%	5.3%	15.8%	8.4%	43.2%	5.3%

表3-4-23 老人保健施設の利用希望

	人数	入所中	すぐにも入所希望	入所を検討したい	なるべく入所したくない	絶対入所したくない	入所の必要ない	無回答
総数	675	6.5%	3.3%	11.7%	20.2%	4.9%	51.0%	2.4%
要介護1	216	1.4%	.5%	8.3%	23.6%	5.6%	59.3%	1.4%
要介護2	167	4.2%	4.2%	15.6%	22.8%	4.2%	48.5%	0.6%
要介護3	101	12.0%	6.0%	17.0%	16.0%	5.0%	41.0%	3.0%
要介護4	95	11.7%	5.3%	13.8%	18.1%	1.1%	45.7%	4.3%
要介護5	96	11.3%	3.1%	5.2%	14.4%	8.2%	52.6%	5.2%

表3-4-24 療養型医療施設の利用希望

	人数	入院中	すぐにも入院希望	入院を検討したい	なるべく入院したくない	絶対入院したくない	入院の必要ない	無回答
総数	675	2.7%	2.8%	13.2%	20.0%	5.6%	53.3%	2.4%
要介護1	216	0.5%	0.5%	8.8%	22.7%	5.6%	60.6%	1.4%
要介護2	167	0.6%	3.0%	20.6%	22.4%	3.0%	49.7%	0.6%
要介護3	101	1.0%	5.0%	16.8%	15.8%	6.9%	51.5%	3.0%
要介護4	95	5.2%	4.2%	13.5%	17.7%	5.2%	50.0%	4.2%
要介護5	96	10.4%	4.2%	6.3%	16.7%	9.4%	47.9%	5.2%

10) 有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅

- 有料老人ホームの利用希望は、「現在、入居中」6.2%、「すぐにでも入居を希望」0.4%、「入居を検討したい」3.1%で、既に入居している人も含めると利用意向のある人は要介護認定者の9.7%であった。「入居を希望するが費用や条件面でむずかしい」という人(22.1%)も合わせると、有料老人ホームの利用希望者は要介護認定者の31.8%であった。
- サービス付き高齢者向け住宅の利用希望は、「現在、入居中」0.4%、「すぐにでも入居を希望」0.1%、「入居を検討したい」2.8%で、既に入居している人も含めると利用意向のある人は要介護認定者の3.3%であった。「入居を希望するが、費用や条件面でむずかしい」という人(10.3%)も合わせると、サービス付き高齢者向け住宅への入居希望者は、要介護認定者の13.6%であった。

表3-4-25 有料老人ホームの利用希望

	人数	入居中	すぐにでも入居希望	入居を検討したい	希望するが難しい	なるべく入居したくない	絶対入居したくない	入居の必要ない	無回答
総数	675	6.2%	0.4%	3.1%	22.1%	12.4%	6.8%	47.3%	1.6%
要介護1	216	4.2%	0.0%	2.3%	19.5%	13.0%	7.4%	52.1%	1.4%
要介護2	167	4.8%	0.0%	5.4%	24.7%	13.3%	4.8%	46.4%	0.6%
要介護3	101	7.8%	1.0%	3.9%	25.5%	8.8%	7.8%	42.2%	2.9%
要介護4	95	7.4%	0.0%	2.1%	26.6%	13.8%	4.3%	44.7%	1.1%
要介護5	96	10.2%	2.0%	1.0%	15.3%	12.2%	10.2%	45.9%	3.1%

表3-4-26 サービス付き高齢者向け住宅の利用希望

	人数	入居中	すぐにでも入居希望	入居を検討したい	希望するが難しい	なるべく入居したくない	絶対入居したくない	入居の必要ない	無回答
総数	675	0.4%	0.1%	2.8%	10.3%	14.0%	6.4%	64.1%	1.8%
要介護1	216	0.5%	0.0%	1.9%	7.4%	15.7%	5.6%	67.6%	1.4%
要介護2	167	0.6%	0.0%	5.5%	12.1%	18.2%	7.3%	55.8%	0.6%
要介護3	101	0.0%	1.0%	3.0%	10.9%	12.9%	6.9%	63.4%	2.0%
要介護4	95	1.1%	0.0%	2.1%	13.8%	9.6%	5.3%	66.0%	2.1%
要介護5	96	0.0%	0.0%	1.0%	9.4%	8.3%	7.3%	69.8%	4.2%

5. 介護者の状況

1) 主介護者の状況

- 主介護者は、「子ども（義理も含む）」が43.8%と最も多く、次いで「配偶者」が30.4%、「福祉サービス」が13.3%と続いていた。
- 性別で見ると、「女性」が68.8%を占めていた。
- 年齢階級別にみると、「60歳未満」が30.2%、「60～70歳未満」が31.5%、「70～80歳未満」が20.6%、「80歳以上」が17.2%であった。
- 「同居」が79.8%、「片道15分未満」が6.7%であった。配偶者が主介護者の場合は「同居」が92.2%であったが、子どもが主介護者の場合は、「同居」が73.6%、「片道15分未満」「片道15～60分」「片道60分以上」が各10%程度であった。
- 他に介護が必要な人がいるか否かについては、要介護認定者のみを介護している人が90.6%であった。子どもが主介護者の場合は、他にも世話をしている人が12.2%いた。
- 「毎日かかりっきりで介護」している人が31.9%、「かかりっきりではないが、ほぼ毎日」が42.2%、「週に3～5日」が6.5%であった。配偶者が主介護者の場合は、「毎日かかりっきり」が43.4%であったのに対し、子どもが主介護者の場合は、「毎日かかりっきり」は24.6%であった。
- 介護期間は、「1年未満」が12.2%、「1～5年未満」が43.0%、「5年以上」が38.1%であった。
- 介護を代わりにしてくれる人がいるか否かについては、「いる」という人が45.6%、「いない」が53.4%であった。配偶者が主介護者の場合は介護を代わりにしてくれる人が「いる」割合は36.4%であったのに対し、子どもではこの割合が50.8%であった。
- 就業状況については、「仕事をしていない」が63.0%、「常勤」が13.8%、「パート」が12.8%、「自営業」が10.0%であった。
- 介護に伴う離職経験については、回答者全体に占める割合で見ると、「常勤職を離職」した経験のある人が8.5%、「非常勤・パートを離職」した経験のある人が10.4%であった。就業経験のある人に限定すると、「常勤職を離職」した経験のある人が11.7%、「非常勤・パートを離職」した経験のある人が14.6%であった。続き柄別にみると、配偶者が主介護者の場合は「常勤職を離職」した経験のある人が6.3%、「非常勤・パートを離職」した経験のある人が7.8%であった。子どもが主介護者の場合は、それぞれの割合は10.8%と13.6%であり、子どもの方が離職を経験した割合が高かった。就業経験者に限定してみた場合も、配偶者よりも子どもが主介護者である方が、介護による離職経験者の割合は高かった。

表3-5-1 主介護者の続柄

単位：%

配偶者	子ども (義理も含む)	その他の 親族	福祉サービス	その他・不明	主介護者 はいない	総数
30.4	43.8	3.3	13.3	0.6	8.4	(675人)

注) 福祉サービスには、ホームヘルパー、施設の職員が含まれる。

表3-5-2 主介護者の性別

単位：%

		男性	女性
配偶者	(205人)	39.0	61.0
子ども(義理も含む)	(297人)	26.0	74.0
その他の親族	(22人)	27.3	72.7
総数	(524人)	31.2	68.8

表3-5-3 主介護者の年齢階級

単位：%

		60歳未満	60～70歳 未満	70～80歳 未満	80歳以上	不明
配偶者	(205人)	0.5	16.1	41.5	42.0	0.0
子ども(義理も含む)	(297人)	50.8	42.7	5.8	0.0	0.7
その他の親族	(22人)	29.2	25.0	25.0	16.7	4.2
総数	(524人)	30.2	31.5	20.6	17.2	0.6

表3-5-4 主介護者の居住地

単位：%

		同居	片道 15分未満	片道 15～60分 未満	片道 60分以上	不明
配偶者	(205人)	92.2	1.5	3.4	1.9	1.0
子ども(義理も含む)	(297人)	73.6	9.5	9.8	6.8	0.3
その他の親族	(22人)	47.8	17.4	21.7	13.0	0.0
総数	(524人)	79.8	6.7	7.8	5.1	0.6

表3-5-5 主介護者は他の家族の介護・看護等をしているか 単位：%

		当該高齢者のみ	他にも世話	不明
配偶者	(205人)	96.1	3.9	0.0
子ども(義理も含む)	(297人)	87.5	12.2	0.3
その他の親族	(22人)	82.6	17.4	0.0
総数	(524人)	90.6	9.2	0.2

表3-5-6 主介護者の介護時間

単位：%

	毎日 かかりきり	かかりきり ではないが ほぼ毎日	週に 3～5日	週に 1～2日	それより 少ない	不明
配偶者 (205人)	43.4	43.9	5.4	1.5	5.9	0.0
子ども(義理も含む) (297人)	24.6	43.4	7.1	9.8	14.5	0.7
その他の親族 (22人)	22.7	9.1	9.1	31.8	27.3	0.0
総数 (524人)	31.9	42.2	6.5	7.4	11.6	0.4

表3-5-7 主介護者の介護期間

単位：%

	1年未満	1～5年	5年以上	その他 無回答
配偶者 (205人)	11.7	47.1	36.4	4.9
子ども(義理も含む) (297人)	12.5	40.9	39.2	7.4
その他の親族 (22人)	13.0	34.8	39.1	13.0
総数 (524人)	12.2	43.0	38.1	6.7

表3-5-8 介護を代わってくれる人の有無

単位：%

	いる	いない	不明
配偶者 (205人)	36.4	63.1	0.5
子ども(義理も含む) (297人)	50.8	47.8	1.4
その他の親族 (22人)	60.9	39.1	0.0
総数 (524人)	45.6	53.4	1.0

表3-5-9 主介護者の就労状況

単位：%

	常勤	パート	自営業 (手伝い含む)	仕事はして いない	不明
配偶者 (205人)	3.9	6.8	5.8	83.5	0.0
子ども(義理も含む) (297人)	21.0	17.6	13.2	47.5	0.7
その他の親族 (22人)	9.5	4.8	4.8	81.0	0.0
総数 (524人)	13.8	12.8	10.0	63.0	0.4

表3-5-10 主介護者の離職経験 (複数回答)

単位：%

	常勤職 の離職	非常勤・ パートの離職	離職 経験なし	もともと 無職	不明 その他
配偶者 (205人)	6.3	7.8	49.5	35.9	0.5
(131人)	9.9	12.2	77.9	-	-
子ども(義理も含む) (297人)	10.8	13.6	57.8	16.2	1.7
(243人)	13.2	16.5	70.4	-	-
その他の親族 (22人)	0.0	0.0	47.8	47.8	4.5
(11人)	0.0	0.0	100.0	-	-
総数 (524人)	8.5	10.4	54.0	25.2	1.4
(385人)	11.7	14.6	73.8	-	-

注1) 「常勤職の離職」「非常勤・パートの離職」は重複回答あり。

注2) 下の数値は就業していた人に限定。

2) 副介護者の状況

- 介護を手伝ってくれる副介護者については、「副介護者がいない」（主介護者がいない人も含む）が37.7%であった。副介護者は、要介護高齢者との続き柄でみると、「子ども（義理も含む）」が43.6%と最も多く、「福祉サービス」が10.9%と続いていた。
- 副介護者の性別は、「女性」が54.2%であった。
- 年齢階級は、「60歳未満」が60.2%、「60～70歳未満」が28.4%、「70～80歳未満」が9.6%であった。
- 「同居」が47.9%、「片道15分未満」が17.3%であった。
- 「毎日かかりっきりで介護」している副介護者は3.6%、「かかりっきりではないが、ほぼ毎日」が22.0%、「週に3～5日」が7.7%であった。配偶者が副介護者の場合は、「毎日かかりっきり」と「かかりっきりではないが、ほぼ毎日」が合わせて77.7%であったのに対し、子どもが副介護者の場合は、この割合が24.9%であった。
- 副介護者の就業状況は、「仕事をしていない」が32.4%、「常勤」が36.6%、「パート」が19.5%、「自営業」が11.1%であった。

表3-5-11 副介護者の高齢者からみた続き柄

単位：%

配偶者	子ども (義理も含む)	その他の 親族	福祉サービス	その他・不明	主介護者 はいない	総数
1.3	43.6	4.9	10.9	1.7	37.7	(672人)

注1)主介護者の続き柄の質問に対して無回答の人(n=3)は除外している。

注2)副介護者がいない人の中には、「主介護者はいない」という人も含まれる。

注3)福祉サービスには、ホームヘルパー、施設の職員が含まれる。

表3-5-12 副介護者の性別

単位：%

		男性	女性
配偶者	(9人)	50.0	50.0
子ども(義理も含む)	(292人)	47.8	52.2
その他の親族	(33人)	27.3	72.7
総数	(334人)	45.8	54.2

表3-5-13 副介護者の年齢階級

単位：%

	60歳未満	60～70歳未満	70～80歳未満	80歳以上	不明
配偶者 (9人)	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0
子ども(義理も含む) (292人)	62.1	30.0	7.5	0.0	0.3
その他の親族 (33人)	57.6	15.2	24.2	3.0	0.0
総数 (334人)	60.2	28.4	9.6	1.5	0.3

表3-5-14 副介護者の居住地

単位：%

	同居	片道15分未満	片道15～60分未満	片道60分以上	不明
配偶者 (9人)	70.0	10.0	10.0	10.0	0.0
子ども(義理も含む) (292人)	47.4	17.4	16.4	18.4	0.3
その他の親族 (33人)	45.5	18.2	18.2	18.2	0.0
総数 (334人)	47.9	17.3	16.4	18.2	0.3

表3-5-15 副介護者の介護時間

単位：%

	毎日かかりきり	かかりきりではないがほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	それより少ない
配偶者 (9人)	33.3	44.4	0.0	11.1	11.1
子ども(義理も含む) (292人)	3.1	21.8	8.2	30.3	36.7
その他の親族 (33人)	0.0	18.2	6.1	30.3	45.5
総数 (334人)	3.6	22.0	7.7	29.8	36.9

表3-5-16 副介護者の就労状況

単位：%

	常勤	パート	自営業(手伝いも含む)	仕事はしていない	不明
配偶者 (9人)	22.2	0.0	33.3	44.4	0.0
子ども(義理も含む) (292人)	38.4	18.8	11.0	31.5	0.3
その他の親族 (33人)	25.0	31.2	6.2	37.5	0.0
総数 (334人)	36.6	19.5	11.1	32.4	0.3

3) 副副介護者の状況

- 副副介護者については、「いない」という人が75.5%と最も多かった。副副介護者がいる場合は、要介護高齢者との続き柄でいうと、「子ども（義理も含む）」が14.6%と最も多く、「福祉サービス」が9.2%と続いていた。

表3-5-17 副副介護者の高齢者からみた続き柄（複数回答）

単位：%

子ども(義理も含む)	14.6
その他の親族	4.4
福祉サービス	9.2
その他	0.5
無回答	0.5
副副介護者はいない	75.5
総数	666 人

注1)主介護者と副介護者の続き柄の質問に対して無回答の人(n=9)は除外している。

注2)福祉サービスには、ホームヘルパー、施設の職員が含まれる。

4) 子どもの状況

- 子どもの数は、「0人」が10.2%、「1人」が19.6%、「2人」が43.6%であった。
- 子どもの数に回答があった人から計算される子ども総数は1303人であった。この人たちの介護への関わりについては、主に介護を担っている人が17.4%、副介護者の役割を担っている人が17.5%、主介護者や副介護者ではないが、多少とも介護に携わっている人が14.8%、ほとんど介護に携わっていない人が48.0%であった。

表3-5-18 子どもの数 単位:%

なし	10.2
1人	19.6
2人	43.6
3人	19.0
4人	5.2
5人以上	1.6
不明	1.0
総数	675人

表3-5-19 子どもの介護役割 単位:%

主介護者	17.4
副介護者	17.5
多少手伝っている	14.8
ほとんど関係ない	48.0
不明	2.3
総数	675人

6. 介護者の健康と生活の状況

1) 健康度自己評価

- 介護者の健康度自己評価は、「よい」16.0%、「まあよい」19.9%、「ふつう」33.1%、「あまりよくない」25.8%、「よくない」4.0%であった。
- 介護されている高齢者の要介護度別にみると、要介護1の高齢者の介護者では「よい／まあよい」が40.3%であるのに対して、要介護5の高齢者の介護者では「よい／まあよい」の割合は30.0%で、高齢者の要介護度が重いほど、介護者の健康度自己評価は悪くなる傾向が見られた。

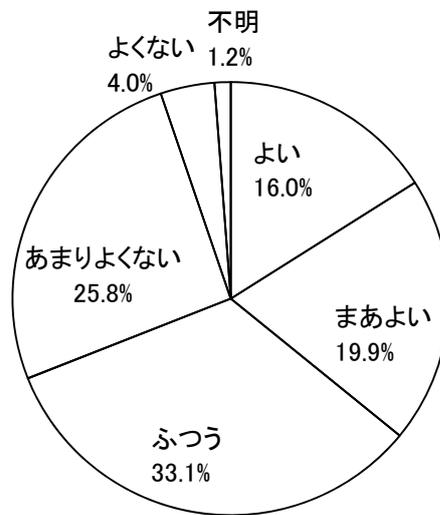


図 3-6-1 介護者の健康度自己評価

注) 本人回答に限定。

表 3-6-1 介護者の健康度自己評価

	人数	よい まあよい	ふつう	あまりよくない よくない	不明
総数	554	35.9%	33.1%	29.8%	1.2%
要介護1	159	40.3%	29.6%	28.3%	1.9%
要介護2	126	39.7%	27.0%	33.3%	0.0%
要介護3	89	34.8%	33.7%	30.3%	1.1%
要介護4	91	30.8%	44.0%	25.3%	0.0%
要介護5	90	30.0%	35.6%	31.1%	3.3%

2) こころの状態

- 抑うつ傾向を把握する指標として広く用いられているK6という指標を用いて、介護者のこころの状態を調べた。これは得点が高いほど気分・不安障害やうつ傾向が強いことを表し、5点以上は気分・不安障害の一次スクリーニングのカットオフ値とされている。調査では、6項目のうち「何をするのも骨折りと感じますか」については、項目から削除した。なぜならば対象者は要介護状態にある高齢者を介護していることから、日常生活については精神的よりも身体的に骨折りを感じる場合が多いためである。ただし、カットオフポイントについては、5点のままとした。調査結果では、「0～4点」が70.3%、「5～9点」が21.1%、「10～14点」が6.6%、「15点以上」が0.7%、「不明」が1.4%であった。
- 今回実施した一般高齢者調査における点数の分布（1章）は、「0～4点」が70.6%、「5～9点」が18.5%、「10～14点」が6.9%、「15点以上」が2.2%、「不明」が1.8%であった。介護者では1項目除いているものの、気分・不安障害の問題がないと考えられる「0～4点」の人の割合は、一般高齢者と比較して大きな違いはなかった。
- 介護されている高齢者の要介護度別にみると、「10点以上」の割合は、要介護1では3.2%、要介護5では9.0%と、要介護度が重くなるほど抑うつ的な介護者が増加する傾向がみられた。

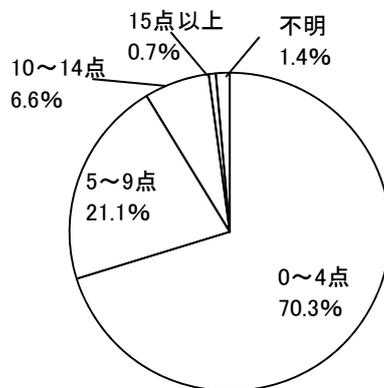


図 3-6-2 介護者のこころの状態

注)本人回答に限定。

表3-6-2 介護者のこころの状態(K6指標)

	人数	0～4点	5～9点	10点以上	不明
総数	552	70.3%	21.1%	7.3%	1.4%
要介護1	158	72.2%	22.2%	3.2%	2.5%
要介護2	126	69.0%	17.5%	13.5%	0.0%
要介護3	88	67.0%	26.1%	5.7%	1.1%
要介護4	91	74.7%	20.9%	4.4%	0.0%
要介護5	89	68.5%	19.1%	9.0%	3.4%

3) 介護負担感

- 主観的な評価指標（8項目）を用いて介護負担感を調べた。「非常にあてはまる」「少しあてはまる」の合計が多い項目を順に示すと、「自由時間の制約」49.0%、「精神的にまいる」47.3%、「外出の制約」46.6%であった。
- 介護されている高齢者の要介護度別では、「経済的負担」に関しては「非常に/少しあてはまる」の合計は、要介護1の高齢者の介護者では28.3%であるのに対し、要介護3の場合は41.6%、要介護5では52.2%と、高齢者の要介護度が重くなるほど介護者の経済的な負担感が増加していた。しかし、「身体負担」「仕事への影響」「家事への影響」「外出制限」「自由時間の制約」に関しては、要介護2や要介護3の高齢者の介護者で「非常に/少しあてはまる」の合計割合はピークであり、要介護度が重い方が介護者の負担感が大きいとは限らなかった。たとえば、家事への影響は、「非常に/少しあてはまる」の合計割合は、要介護1で11.3%、要介護3で23.6%、要介護5で11.3%となっていた。

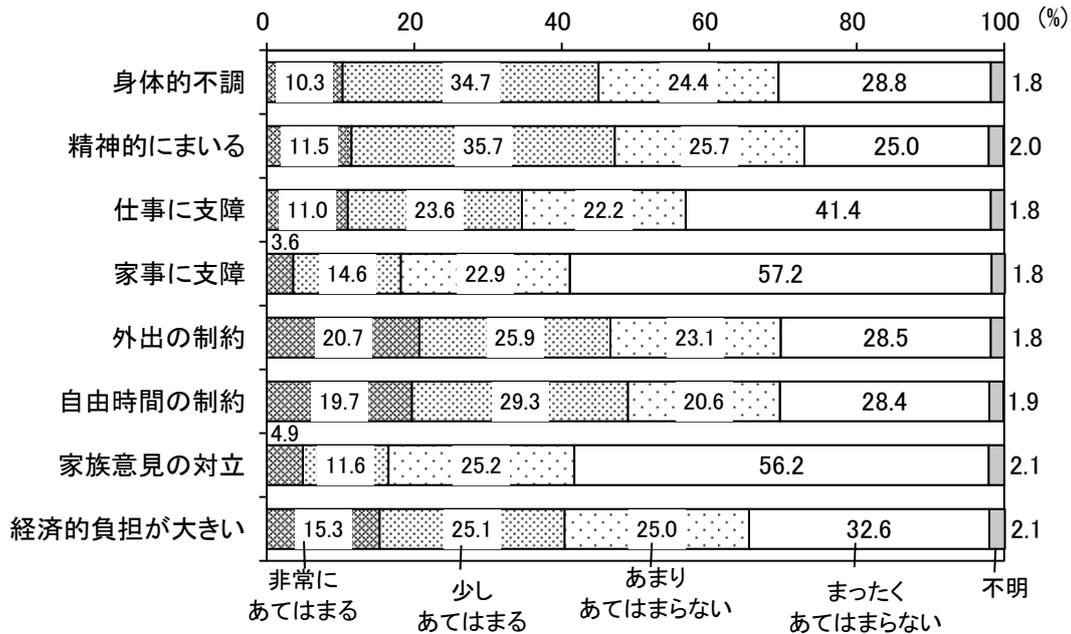


図 3-6-3 介護負担感

表 3-6-3 介護負担感（「非常にあてはまる」「少しあてはまる」を合計した割合）

	人数	身体的負担	精神的負担	仕事への影響	家事への影響	外出の制限	自由時間の制約	家族意見の対立	経済的負担
総数	552	45.1%	47.3%	34.6%	18.1%	46.6%	49.0%	16.6%	40.3%
要介護1	158	36.7%	41.8%	29.7%	11.3%	42.8%	41.8%	13.8%	28.3%
要介護2	126	54.3%	53.2%	42.5%	25.2%	51.2%	56.3%	19.7%	40.9%
要介護3	88	50.0%	50.6%	39.3%	23.6%	50.6%	57.3%	18.2%	41.6%
要介護4	91	47.3%	46.2%	31.9%	17.6%	46.2%	50.5%	14.4%	48.4%
要介護5	89	40.0%	46.1%	28.9%	11.3%	43.3%	42.2%	16.7%	52.2%

4) 自由時間、社会活動の状況

- 介護者の自由時間は、「1時間未満」が27.7%、「1時間程度」が12.2%、「2時間程度」が20.6%であった。友人・知人等との交流頻度は、「まったくない」が26.6%、「月に1回未満」が19.3%であった。趣味などの社会活動への参加頻度は、「まったくない」が58.2%と、半数以上が社会活動に参加していなかった。
- 介護されている高齢者の要介護度別にみると、自由時間が「1時間未満」の割合は、要介護2、3、4の高齢者を介護している人では30%以上であるのに対して、要介護1と5の場合は20%程度であった。友人・知人との交流頻度がまったくない介護者の割合は、要介護度1では17.7%であったが、それ以上の要介護度では30%前後であった。社会活動への参加頻度がまったくない介護者の割合も、要介護度1では51.3%であったが、要介護3以上の場合はおおむね60%前後という状況であった。

表 3-6-4 介護者の自由時間

	人数	1時間未満	1時間程度	2時間程度	3時間程度	4時間以上	不明
総数	552	27.7%	12.2%	20.6%	16.5%	21.0%	2.2%
要介護1	158	19.6%	12.0%	22.2%	24.1%	20.3%	1.9%
要介護2	126	33.1%	17.3%	18.9%	8.7%	19.7%	2.4%
要介護3	88	32.6%	7.9%	24.7%	14.6%	18.0%	2.2%
要介護4	91	35.6%	11.1%	15.6%	15.6%	20.0%	2.2%
要介護5	89	21.3%	10.1%	21.3%	16.9%	27.0%	3.4%

表 3-6-5 介護者の友人・知人等との交流頻度

	人数	週1回以上	月2~3回	月1回くらい	月1回未満	まったくない	不明
総数	552	21.9%	14.8%	15.5%	19.3%	26.6%	1.8%
要介護1	158	27.2%	16.5%	17.1%	19.6%	17.7%	1.9%
要介護2	126	17.6%	14.4%	16.8%	20.0%	30.4%	0.8%
要介護3	88	18.4%	14.9%	16.1%	21.8%	26.4%	2.3%
要介護4	91	25.3%	12.1%	11.0%	19.8%	30.8%	1.1%
要介護5	89	18.9%	15.6%	15.6%	15.6%	32.2%	2.2%

表 3-6-6 介護者の社会活動(趣味活動など)への参加頻度

	人数	週1回以上	月2~3回	月1回くらい	月1回未満	まったくない	不明
総数	552	13.9%	7.7%	8.8%	10.1%	58.2%	1.4%
要介護1	158	17.7%	7.0%	9.5%	12.7%	51.3%	1.9%
要介護2	126	15.7%	8.7%	9.4%	10.2%	55.9%	0.0%
要介護3	88	9.0%	10.1%	7.9%	7.9%	64.0%	1.1%
要介護4	91	15.6%	6.7%	7.8%	10.0%	58.9%	1.1%
要介護5	89	7.8%	7.8%	8.9%	6.7%	65.6%	3.3%

5) 社会的支援

- 「介護に関する相談や情報の提供（情動的支援）」「心配事や悩みごとの相談や理解（情緒的支援）」「日常生活のちょっとした手伝い（手段的支援）」について、どのような人から、どの程度支援を得ているかを質問した。
- 情動的支援については、「医療・福祉の専門職」から得ている人が70.3%と最も多く、次いで「同居家族」からの48.0%であった。
- 手段的支援と情緒的支援については、「同居家族」から得ている人がそれぞれ50%程度と最も多く、次いで「別居親族」からそれぞれ45.1%と34.4%であった。
- 支援とは逆に、「周囲の人から過剰な要求をされるか否か」について質問した。過剰要求を「同居家族」からされるという介護者は15.6%、「別居親族」からは10.0%であった。「知人・友人・近隣の人」や「医療福祉の専門職」から過剰要求をされるケースはほとんどなかった。
- 介護される高齢者の要介護度別でみると、「情動的支援」を「同居家族」や「医療・福祉の専門職」から得ている介護者は、要介護1では、それ以上の要介護度の人と比較して低かった。情緒的支援、手段的支援についても、情動的支援と同じように、「同居家族」あるいは「医療・福祉の専門職」から支援を得ることができている人の割合は、要介護1の場合はそれ以上の要介護度の人と比較して低かった。「別居親族」と「知人・友人・近隣の人」については、要介護度による差は明確ではなかった。過剰要求についても、要介護度による違いははっきりしなかった。

表 3-6-7 介護者への情動的支援（「かなりある」「いくらかある」を合計した割合）

	人数	同居家族	別居親族	知人・友人・近隣	医療・福祉の専門職
総数	552	48.0%	46.6%	26.6%	70.3%
要介護1	158	39.2%	50.6%	27.2%	63.3%
要介護2	126	55.1%	40.9%	22.8%	71.7%
要介護3	88	48.3%	40.4%	32.6%	73.9%
要介護4	91	48.4%	47.3%	25.6%	69.2%
要介護5	89	52.2%	53.3%	25.6%	77.8%

表 3-6-8 介護者への情緒的支援（「かなりある」「いくらかある」を合計した割合）

	人数	同居家族	別居親族	知人・友人・近隣	医療・福祉の専門職
総数	552	49.0%	45.1%	31.2%	35.1%
要介護1	158	40.3%	46.2%	30.8%	28.3%
要介護2	126	59.1%	44.9%	33.1%	38.6%
要介護3	88	45.5%	41.6%	35.2%	37.5%
要介護4	91	50.0%	44.4%	26.4%	34.1%
要介護5	89	52.2%	47.8%	30.0%	41.1%

表 3-6-9 介護者への手段的支援（「かなりある」「いくらかある」を合計した割合）

	人数	同居家族	別居親族	知人・友人・近隣	医療・福祉の専門職
総数	552	49.1%	34.4%	14.2%	18.4%
要介護1	158	41.8%	42.8%	10.1%	12.7%
要介護2	126	54.3%	39.4%	17.5%	15.7%
要介護3	88	50.6%	33.7%	18.2%	22.7%
要介護4	91	51.6%	37.4%	11.0%	23.1%
要介護5	89	50.0%	41.1%	15.6%	24.4%

表 3-6-10 介護者への過剰要求（「かなりある」「いくらかある」を合計した割合）

	人数	同居家族	別居親族	知人・友人・近隣	医療・福祉の専門職
総数	552	15.6%	10.0%	2.2%	3.4%
要介護1	158	15.2%	8.8%	1.9%	4.4%
要介護2	126	16.5%	14.3%	6.3%	3.9%
要介護3	88	16.9%	13.5%	0.0%	2.3%
要介護4	91	17.6%	6.6%	0.0%	2.2%
要介護5	89	12.2%	6.7%	2.2%	2.2%

6) 情緒的消耗（燃え尽き感）

- 「一日のお世話が終わると、疲れ果てたと感じる」「朝起きて、また今日も一日お世話かと思うと疲れを感じる」などの7項目のスケールを用いて、情緒的消耗の状態を評価した。選択肢は、「非常にあてはまる」「かなりあてはまる」「まあまああてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」であった。それぞれに4点から0点までをあてはめ、点数化した。介護者全体における情緒的消耗の平均値は、9.58であった。
- この平均値を要介護度別で見ると、「要介護1」が8.49、「要介護2」が11.18、「要介護3」が10.50、「要介護4」が10.10、「要介護5」が7.78と、要介護2～4の高齢者（特に要介護2）を介護している人で情緒的消耗の度合いが強かった。

表 3-6-11 介護者の情緒的消耗

	人数	平均値
総数	540	9.58
要介護1	153	8.49
要介護2	124	11.18
要介護3	86	10.50
要介護4	89	10.10
要介護5	88	7.78

7) 暮らし向き

- 暮らし向きは、「かなり苦しい」または「やや苦しい」という介護者が 26.5%であった。
- 介護される高齢者の要介護度別にみると、「かなり/やや苦しい」の割合は、要介護1の高齢者を介護している人では 21.0%、要介護2では 32.7%、要介護3では 30.9%、要介護4では 21.5%、要介護5では 21.0%で、要介護2や3の高齢者を介護している人で、経済的な困窮感が強い傾向がみられた。

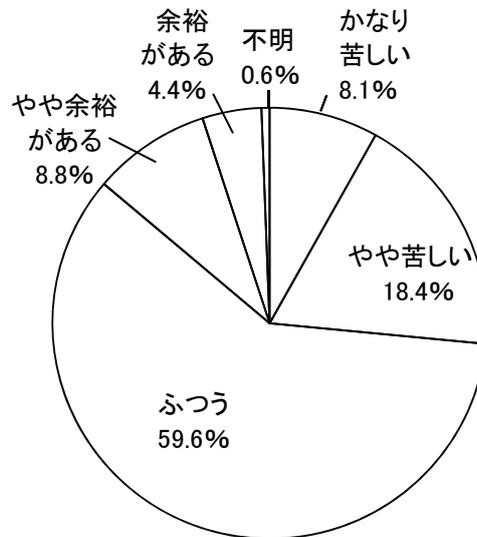


図 3-6-4 介護者の暮らし向き

表 3-6-12 介護者の暮らし向き

	人数	かなり苦しい やや苦しい	ふつう	やや余裕がある 余裕がある	不明
総数	552	26.5%	59.6%	13.2%	0.6%
要介護1	158	21.0%	64.0%	15.0%	0.0%
要介護2	126	32.7%	55.6%	11.1%	0.6%
要介護3	88	30.9%	56.7%	11.3%	1.0%
要介護4	91	21.5%	65.6%	11.8%	1.1%
要介護5	89	21.0%	64.0%	15.0%	0.0%